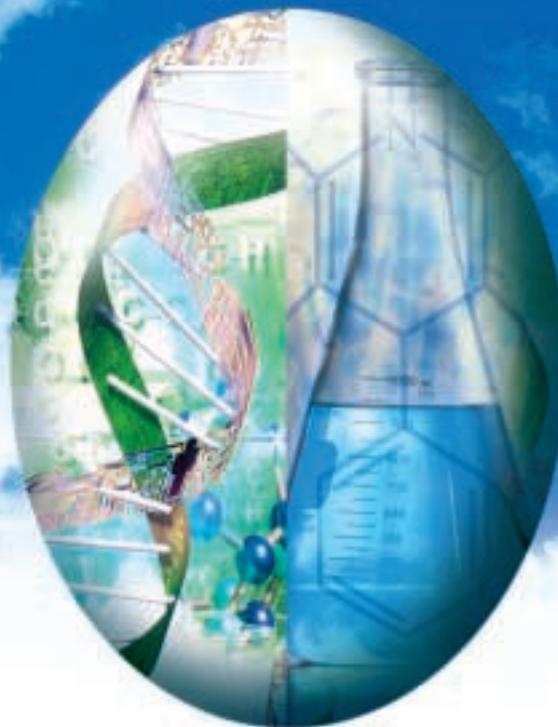


# 第6期 中間事業報告書

平成16年1月1日 ▶ 平成16年6月30日



AnGes

アンジェス MG株式会社

証券コード4563

# Top Interview

トップインタビュー

## 日本初の遺伝子治療薬の多施設二重盲検試験を開始



代表取締役社長 山田 英

Q

この半年間を振り返って、株主の皆様への報告をお願いします。

A

まずHGF遺伝子治療薬の開発状況に関してですが、足の血管疾患であるPAD（Peripheral arterial disease、末梢性血管疾患）の米国での進行状況につきましては、昨年の4月末から第Ⅱ相臨床試験を進めておりまして、着実に患者さんのリクルートメントを実施し、投与をしてまいりました。現在は、目標症例数の後半に入ったと

ころです。念願の日本での臨床試験については、今年の3月に第Ⅲ相試験が開始されたところです。これにつきましても、できるだけ早期に患者さんへの投与を完了し、当局への承認申請に持ち込みたいと思っていますところです。

心臓の血管疾患であるIHD（Ischemic Heart Disease、虚血性心疾患）につきましては、今年の2月に、米国FDAに臨床試験を開始するためIND（Investigational New Drug、治験薬申請）を致しましたが、7月にこの申請が通過し、近く第Ⅰ相臨床試験を始められる目処が付きまして。

このようなわけで、HGF遺伝子治療薬については、足の

疾患、心臓の疾患ともに、開発は順調に進められていると御報告申し上げられるかと思えます。

NF $\kappa$ Bデコイオリゴにつきましては、アトピー性皮膚炎が臨床準備中のステージにございまして、来年の早期に臨床試験に入ることを目指すことができる段階までやってきました。関節リウマチにつきましては、薬効のさらなる向上を目指して製剤の研究をさらに続けているところで、乾癬においては、株式会社島津製作所の針無し注射器を使って従来にない新しい投与法を適用することによって、この疾患への応用を検討しているところです。

HVJエンベロープベクターにつきましては、遺伝子のハイスループットスクリーニング（高速遺伝子機能解析）のシステム構築を目指して、上期に開発を進めてまいりましたが、同システムの製品化の目処がついてまいりましたが、同システムの製品化の目処がついてまいりましたが、このシステムを適用することによって、迅速に新しい遺伝子の機能を解析することができ、遺伝子治療薬や遺伝子診断薬の開発にも繋がる新しいツールだということができるかと思えます。同時に、三菱スペース・ソフトウェア株式会社と新しい核酸医薬siRNAを迅速に分子設計できるドラッグデザインシステムの開発を致しました。今後は、HVJエンベロープベクターのハイスループットスクリーニングシステムを使って、siRNAのドラッグデザインシステムの精度向上を図ってまいります。

東大22世紀医療センタープロジェクトの一環として、弊社が寄附講座を設置することに致しました。遺伝子治療薬と細胞治療薬に関する新しいシーズ発掘、特に循環器領域における新しい治療法、治療薬の開発を目指します。弊社は、産学連携のもとに誕生したベンチャーですが、世界的



に競争の激しい先端医療領域において、産学連携の一層の強化のなかから、新しい治療法の創生を目指すものです。

また、弊社は、国内外の新しい遺伝子医薬のシーズ発掘を目指しておりますが、その一環として、米国の西海岸にシーズ発掘の拠点として事務所を開設致しました。日本のみならず、海外のシーズも視野に入れて探索活動を行うことによって、世界に通用する新しい遺伝子医薬の創生を目指してまいります。

本中間期連結決算は、事業収益876百万円（前年同期1,274百万円）、経常損失883百万円（前年同期360百万円の損失）、中間純損失881百万円（前年同期363百万円の純損失）と、減収減益となりました。これは、当初から想定されていたことですが、前年同期に計上されていたライセンス料の反動があったためです。上期は、PADで米国に続いて日本でも臨床試験を始めることができ、IHDでも米国で臨床試験を開始する目処を立てることができました。このように研究開発活動は着実に進めております。今後も、株主の皆様に一層深い御理解を頂けるよう努めてまいりますので、ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

### 医薬品開発の状況

プロジェクト	対象領域	地域	開発段階	提携等
HGF遺伝子治療薬	末梢性血管疾患	日本	第Ⅲ相	第一製薬株式会社
		米国	第Ⅱ相	
	虚血性心疾患	米国	第Ⅰ相準備中 (IND通過)	
	パーキンソン		前臨床	
NFκBデコイオリゴ	アトピー性皮膚炎		臨床準備中	未定
	乾癬		前臨床	未定
	関節リウマチ		臨床準備中	生化学工業株式会社
	変形性関節症		前臨床	
	血管再狭窄予防		臨床準備中	株式会社グッドマン

### 一般的な新薬開発のプロセスと期間

一般的に医薬品の開発は、新薬候補物質が決まるとまず動物試験など前臨床試験が実施され、有効性及び安全性などが確認されます。この前臨床試験を経て、実際にヒトに投与する臨床試験（治験）に入ります。

臨床試験は、通常、下記の通り第Ⅰ相、第Ⅱ相、第Ⅲ相に分かれて実施されます。医薬品を開発する製薬会社は、これら試験における新薬候補物質の有効性及び安全性の成績をもって、行政当局に新薬承認申請し、承認が得られた後に発売可能になります。

ただし、癌など重篤な疾患を対象とする場合には、必ずしも臨床試験の構成が下記の通りになる訳ではなく、より効率的な試験の構成が可能になる場合もあります。

プロセス	期間	内容
基礎研究	2～3年	新規物質の創製及び候補物質の絞り込み
前臨床試験	3～5年	実験動物を用いて、有効性及び安全性を確認する試験
臨床試験	3～7年	第Ⅰ相：少数健康人を対象にして、安全性及び薬物動態を確認する試験
		第Ⅱ相：少数患者を対象にして、有効性及び安全性を確認する試験
		第Ⅲ相：多数患者を対象にして、既存薬との比較により有効性及び安全性を確認する試験
申請・承認	1～2年	国（厚生労働省）による審査

# Main Project

## 主要プロジェクト

1

### HGF遺伝子治療薬

HGF (Hepatocyte Growth Factor、肝細胞増殖因子※1) は、肝臓の細胞を増やす因子として1984年に大阪大学の中村敏一教授により発見されました。最初は、肝臓の病気の治療薬として研究されていましたが、HGFの遺伝子を投与することで血管を新しく増やす治療法が1995年に大阪大学大学院の森下竜一寄附講座教授により発明されました。HGF遺伝子治療薬は、血管が詰まり血流が悪くなっている虚血性疾患に対して、血管を新生するというこれまでにない治療薬になる可能性があります。

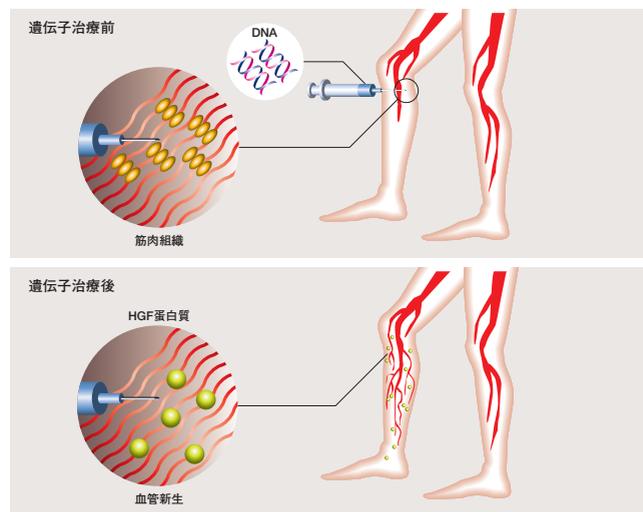
血管が詰まることにより生じる病気には、例えば、①糖尿病などにより足の血管が閉塞し、血液がうまく届かず壊死して最終的には足を切断しなければならない末梢性血管疾患※2 (閉塞性動脈硬化症やバージャー病) や、②心臓の冠動脈の血流の流れが悪くなって起こる虚血性心疾患※3 (狭心症や心筋梗塞) があります。これらの病気に対しては、重症になると、薬物療法のほか、バルーンカテーテル (カテーテルにより血管を通して動脈の形成を行う治療) やバイパス手術を施しますが、それでも十分に回復しない場合があります。HGF遺伝子治療薬は、こうした他に治療法がなく、足を切断せざるを得ない症例に対しても効果が期待され、注射という簡便な方法で血管を新生させ治療することを目指しております。当社グループでは、まず、従来の治療法では十分に回復しない症例を対象に開発を進める方針です。

このような血管新生療法は、米国では、VEGF (Vascular Endothelial Growth Factor、血管内皮細胞増殖因子) やFGF (Fibroblast Growth Factor、線維芽細胞増殖因子) 等を用いた遺伝子治療の臨床試験が行われ、血流が回復して足の切断を免れた症例も報告されております。HGFは、これら競合の遺伝子治療薬より血管新生作用が強いことが動物実験で示されており、しかもVEGFでみられる浮腫の副作用が見られていないことから、有効性と安全性の両面で競合品と差別化できると考えております。

末梢性血管疾患領域については、米国で第Ⅱ相臨床試験、日本で多施設二重盲検試験を第Ⅲ相臨床試験として実施しております。虚血性心疾患領域についても、米国で第Ⅰ相臨床試験の準備を進めており、近く開始する予定です。日本でも、早期に臨床試験を開始できるよう準備を進めております。

なお、HGF遺伝子治療薬の末梢性血管疾患及び虚血性心疾患領域については、第一製薬株式会社と販売提携しております。

#### 注射によるHGF遺伝子治療 (末梢性血管疾患)



#### 用語解説

※1 肝細胞増殖因子 (Hepatocyte Growth Factor: HGF)  
肝細胞から発見された増殖因子で、血管新生作用を有するほか、発生過程における器官形成や傷害に伴う組織・器官の再生において重要な役割を担います。

※2 末梢性血管疾患 (peripheral arterial disease)  
四肢の末梢血管が閉塞することにより、筋肉や皮膚組織が虚血状態に陥り、しびれ、冷感、間歇性跛行、安静時疼痛、下肢潰瘍などの症状を示します。閉塞性動脈硬化症やバージャー病があります。

※3 虚血性心疾患 (ischemic heart disease)  
心臓を養う動脈 (冠動脈) がある程度狭窄すると、労作時に十分な血液が流れず、胸苦しさや胸痛などの症状を示す狭心症や、冠動脈が完全閉塞し、心筋組織が虚血状態になる心筋梗塞があります。

## 2

## NF $\kappa$ Bデコイオリゴ

遺伝子医薬には大きく分けると二つの方法があります。一つは、HGF遺伝子治療薬のように遺伝子そのものを利用するもの、もう一つは核酸合成機で作成される人工遺伝子を利用するものです。後者は、遺伝子そのものではなく、遺伝子の構成成分の一部のみを使うため人工遺伝子と呼ばれたり、核酸からできているので核酸医薬と呼ばれたりしております。

デコイは、この核酸医薬の一種です。遺伝子は、転写因子がゲノムに着地してスイッチが入りますが、デコイは、そのゲノム上の転写因子結合部分と同じ配列を含む短い核酸(DNA)を人工的に合成したもので、体内に投与すると転写因子がゲノムに着地することを阻害して遺伝子の働きを抑えます。

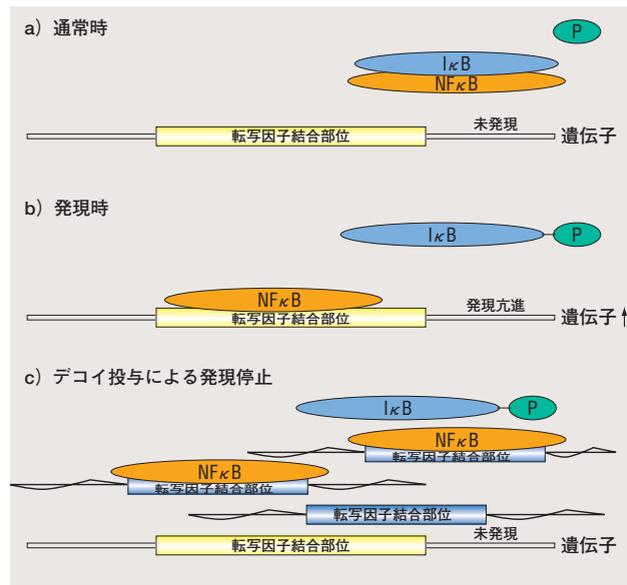
NF $\kappa$ Bは、免疫反応を強める遺伝子のスイッチである転写因子で、このNF $\kappa$ Bに対するデコイを作成することでアトピー性皮膚炎や関節リウマチなど過剰な免疫反応を原因とする病気の治療を目指しております。この治療法は、1995年に大阪大学大学院の森下竜一寄附講座教授により発明されました。現在、当社では、NF $\kappa$ Bデコイオリゴの有効性や安全性などを動物実験等で確認する前臨床試験を実施しております。

なお、NF $\kappa$ Bデコイオリゴについては、関節リウマチ及び変形性関節症領域において生化学工業株式会社と共同研究契約を締結しているほか、血管再狭窄予防<sup>※4</sup>領域において株式会社グッドマンと業務提携をしております。

### 用語解説

※4 血管再狭窄予防  
(血管の)狭窄とは、血管が詰まり狭くなってしまうことです。動脈硬化により生じる冠状動脈などの狭窄は、主にバルーンカテーテルを用いた血管拡張術(いわゆる風船療法)により狭窄部位を広げる治療法が用いられています。しかしながら、この手法は、30~40%の症例において、(再度血管の詰まる)再狭窄が生じるという欠点があり、血管拡張術後の再狭窄を予防できる製品の開発が期待されています。

### NF $\kappa$ Bデコイオリゴの作用原理



### 3

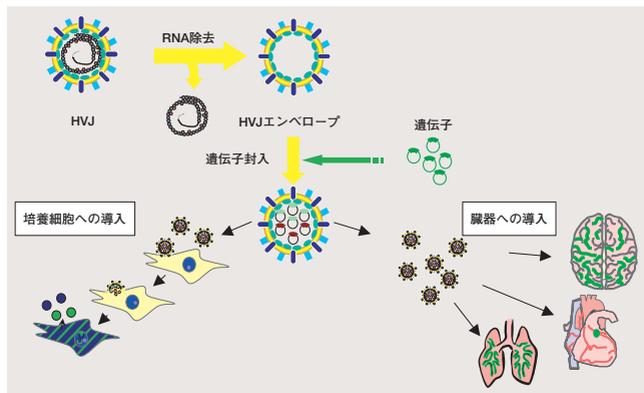
## HVJエンベロップベクター

遺伝子が体内でうまく働くためには、細胞の中に入らなければなりません。遺伝子は、そのまま細胞に近づくことはできても、細胞の中に入っていくことはできません。遺伝子治療薬には、細胞の膜を突破し、細胞の中に遺伝子を運ぶ役目をする優れたベクター（運び屋）が必要になります。

HVJ（Hemagglutinating Virus of Japan、別名センダイウイルス）は、1950年代に日本で発見されたウイルスです。このHVJの中のゲノムを全て除去し、膜のみを用いるベクターがHVJエンベロップベクター（以下、HVJ-E非ウイルス性ベクター）です。このベクターの製造方法が、2000年に大阪大学大学院の金田安史教授により発明されました。

HVJ-E非ウイルス性ベクターは、膜に細胞を融合（細胞融合）する作用があることから、遺伝子を細胞に導入する効率が高く、しかもウイルスゲノムが全て除去されているため、ヒトに対する安全性も高いベクターです。遺伝子治療に用いるベクターは、主にウイルス性ベクターと非ウイルス性ベクターに分けられま

### HVJ-E非ウイルス性ベクターによる遺伝子導入システム



す。ウイルスの感染能力を利用するウイルス性ベクターは、導入効率は高いが安全性の面に問題があり、脂質材料などによる非ウイルス性ベクターは、安全性は高いものの導入効率の面に問題がありました。HVJ-E非ウイルス性ベクターは既存ベクターの持つこれらの問題点が解決されているため、汎用性が高く、世界をリードするベクターになる可能性があります。

HVJ-E非ウイルス性ベクターは、遺伝子治療薬への応用のほか、核酸医薬や蛋白医薬、さらに低分子化合物など従来からある医薬品の薬剤吸収を向上するドラッグデリバリーシステム（DDS）として有効である可能性があります。

また、HVJ-E非ウイルス性ベクターは、創薬や診断薬に利用できる新規有用遺伝子を発見する研究に用いることができます。ベクターにより調べたい遺伝子を細胞や臓器に導入し、実際どのような影響が出るかを観察することで新規有用遺伝子を見つけることができます。HVJ-E非ウイルス性ベクターは、膜に細胞融合作用があることから、高い効率で、しかも迅速に遺伝子を運び込むことができます。さらに、ウイルスのゲノムが全て除去されていることから、ヒトに対する安全性も高く、一度に大量の遺伝子を封入することもできます。このため、HVJ-E非ウイルス性ベクターは、遺伝子機能解析のツールとしても有力な手段です。

HVJ-E非ウイルス性ベクターについては、遺伝子治療やドラッグデリバリーシステムとして医薬品分野に応用する研究開発を実施しています。その一環として池田ラボにおいて、2002年11月、GMP（Good Manufacturing Practice、医薬品の製造管理及び品質管理に関する基準）に準拠したHVJ-E非ウイルス性ベクター製造用パイロットプラントを完成しております。

また、遺伝子探索研究としては、大阪大学大学院医学系研究科金田安史教授、産業技術総合研究所関西センターと共同で開発しておりました高速遺伝子機能解析デバイスが完成し、同デバイスを用いた新規遺伝子の探索研究や、遺伝子診断薬のシーズ探索を実施しております。

# Consolidated Financial Statements

## 中間連結財務諸表

### ● 中間連結貸借対照表

科目	前中間期	当中間期	前期
	(平成15年6月30日現在)	(平成16年6月30日現在)	(平成15年12月31日現在)
<b>資産の部</b>			
流動資産	5,321,425	10,147,693	10,596,116
現金及び預金	3,499,308	5,416,473	6,072,021
売掛金	94,338	107,543	84,765
有価証券	—	2,100,120	2,298,748
たな卸資産	616,611	552,146	530,167
前渡金	966,879	1,309,343	935,523
前払費用	66,378	63,504	76,183
未収入金	13,942	—	—
立替金	64,074	80,841	96,840
信託受益権	—	500,000	500,000
その他	—	17,719	1,982
貸倒引当金	△108	—	△116
固定資産	359,727	482,611	378,007
有形固定資産	217,930	183,941	198,059
建物	125,584	91,661	106,194
機械装置	24,403	14,377	18,417
工具器具備品	67,941	77,902	73,447
無形固定資産	92,397	237,779	126,455
連結調整勘定	—	18,217	20,361
特許権	86,875	165,282	98,645
その他	5,522	54,279	7,448
投資その他の資産	49,399	60,890	53,492
投資有価証券	—	1,000	1,000
敷金保証金	41,582	40,125	41,898
その他	7,816	19,765	10,594
資産合計	5,681,152	10,630,304	10,974,124

科目	前中間期	当中間期	前期
	(平成15年6月30日現在)	(平成16年6月30日現在)	(平成15年12月31日現在)
<b>負債の部</b>			
流動負債	1,557,688	1,723,517	1,493,753
買掛金	256,209	111,858	107,939
未払金	69,567	78,152	60,354
未払費用	4,316	13,468	5,413
未払法人税等	4,967	3,152	5,458
未払消費税等	14,218	—	34,920
前受金	1,200,919	1,499,719	1,272,617
預り金	6,644	17,165	7,049
繰延税金負債	845	—	—
負債合計	1,557,688	1,723,517	1,493,753
<b>少数株主持分</b>			
少数株主持分	7,386	21,153	26,037
<b>資本の部</b>			
資本金	1,803,297	4,939,128	4,784,341
資本剰余金	3,100,690	6,236,521	6,081,734
利益剰余金	△784,008	△2,280,329	△1,399,134
その他有価証券評価差額金	—	△66	△1,957
為替換算調整勘定	△3,901	△9,620	△10,651
資本合計	4,116,077	8,885,633	9,454,332
負債、少数株主持分及び資本合計	5,681,152	10,630,304	10,974,124

## ●中間連結損益計算書

(単位：千円)

科目	前中間期	当中間期	前期
	(自平成15年1月1日 至平成15年6月30日)	(自平成16年1月1日 至平成16年6月30日)	(自平成15年1月1日 至平成15年12月31日)
事業収益	1,274,769	876,194	2,453,440
事業費用	1,638,846	1,764,925	3,401,719
研究開発費	1,343,160	1,459,238	2,807,757
販売費及び一般管理費	295,686	305,686	593,962
営業損失	364,077	888,730	948,278
営業外収益	5,323	8,138	31,965
受取利息	80	3,046	605
為替差益	1,215	—	9,502
補助金収入	—	1,972	19,929
還付消費税等	—	2,045	—
賃貸収入	—	900	—
雑収入	4,027	173	1,928
営業外費用	1,709	2,655	37,634
新株発行費償却	—	1,550	35,925
為替差損	—	972	—
雑損失	1,709	133	1,709
経常損失	360,463	883,248	953,947
特別利益	233	116	224
貸倒引当金戻入益	233	116	224
特別損失	—	670	24,730
固定資産除却損	—	670	188
前渡金処理損失	—	—	24,541
税金等調整前中間(当期)純損失	360,230	883,801	978,452
法人税、住民税及び事業税	4,059	2,277	4,571
法人税等調整額	343	—	△482
少数株主損失	1,319	4,884	4,100
中間(当期)純損失	363,314	881,195	978,440

## ●中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

科目	前中間期	当中間期	前期
	(自平成15年1月1日 至平成15年6月30日)	(自平成16年1月1日 至平成16年6月30日)	(自平成15年1月1日 至平成15年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	△217,817	△1,022,582	△689,062
投資活動によるキャッシュ・フロー	△115,240	56,986	△4,484,790
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,500	308,023	5,927,663
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,358	2,023	△11,296
現金及び現金同等物の増加額又は減少額(△)	△330,199	△655,548	742,513
現金及び現金同等物の期首残高	3,829,508	4,572,021	3,829,508
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	3,499,308	3,916,473	4,572,021

## ●中間連結剰余金計算書

(単位：千円)

科目	前中間期	当中間期	前期
	(自平成15年1月1日 至平成15年6月30日)	(自平成16年1月1日 至平成16年6月30日)	(自平成15年1月1日 至平成15年12月31日)
(資本剰余金の部)			
資本剰余金期首残高	3,099,940	6,081,734	3,099,940
資本剰余金増加高	750	154,787	2,981,794
増資による新株式の発行	—	—	2,930,147
ストックオプション行使による新株式の発行	750	154,787	51,647
資本剰余金中間期末(期末)残高	3,100,690	6,236,521	6,081,734
(利益剰余金の部)			
利益剰余金期首残高	△420,693	△1,399,134	△420,693
利益剰余金減少高	363,314	881,195	978,440
中間(当期)純損失	363,314	881,195	978,440
利益剰余金中間期末(期末)残高	△784,008	△2,280,329	△1,399,134

# Corporate Data

## 会社概要 (平成16年6月30日現在)

会社名：アンジェス MG株式会社  
 (英文名：AnGes MG, Inc.)  
 会社設立：平成11年12月  
 決算期：12月31日  
 資本金：4,939百万円  
 従業員数：52名

## ●事業所

本社  
 〒560-0082 大阪府豊中市新千里東町一丁目4番2号  
 千里ライフサイエンスセンタービル10階

池田ラボ  
 〒563-8577 大阪府池田市緑丘一丁目8番31号

東京支社  
 〒108-0014 東京都港区芝五丁目20番14号 三田鈴木ビル5階

(注) 平成16年9月1日をもって本社及び研究所(池田ラボ)を下記の通り移転しております。  
 本社  
 〒567-0085 大阪府茨木市彩都あさぎ七丁目7番15号  
 彩都バイオインキュベータ4階

彩都研究所  
 〒567-0085 大阪府茨木市彩都あさぎ七丁目7番15号  
 彩都バイオインキュベータ4階



## 単体決算の概要

### ●中間要約貸借対照表

(単位：千円)

科目	前中間期 (平成15年6月30日現在)	当中間期 (平成16年6月30日現在)	前期 (平成15年12月31日現在)
<b>資産の部</b>			
流動資産	5,271,058	10,001,090	10,387,059
固定資産	435,499	555,335	442,722
資産合計	5,706,557	10,556,426	10,829,781
<b>負債の部</b>			
流動負債	1,583,246	1,652,741	1,368,157
負債合計	1,583,246	1,652,741	1,368,157
<b>資本の部</b>			
資本金	1,803,297	4,939,128	4,784,341
資本剰余金	3,100,690	6,236,521	6,081,734
利益剰余金	△780,676	△2,271,898	△1,402,493
その他有価証券評価差額金	—	△66	△1,957
資本合計	4,123,311	8,903,685	9,461,624
負債資本合計	5,706,557	10,556,426	10,829,781

### ●中間要約損益計算書

(単位：千円)

科目	前中間期 (自平成15年1月1日 至平成15年6月30日)	当中間期 (自平成16年1月1日 至平成16年6月30日)	前期 (自平成15年1月1日 至平成15年12月31日)
事業収益	1,274,769	850,912	2,452,246
事業費用	1,642,775	1,724,930	3,408,020
営業損失	368,006	874,017	955,774
営業外収益	5,875	9,672	34,586
営業外費用	1,709	2,880	37,634
経常損失	363,840	867,225	958,821
特別利益	234	118	226
特別損失	—	400	24,541
税引前中間(当期)純損失	363,606	867,507	983,136
法人税、住民税及び事業税	1,507	1,897	3,794
中間(当期)純損失	365,113	869,404	986,930
前期繰越損失	415,563	1,402,493	415,563
中間(当期)未処理損失	780,676	2,271,898	1,402,493

# Stock Information

## 株式の状況 (平成16年6月30日現在)

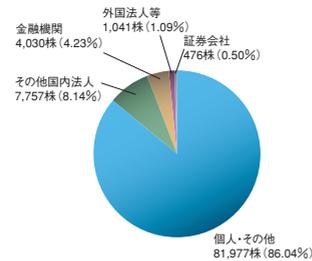
会社が発行する株式の総数	246,976株
発行済株式の総数	95,281株
株主数	15,730名

## ●大株主の状況

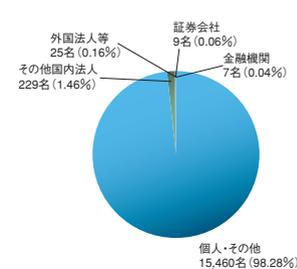
株主名	持株数	議決権比率
森下 竜一	12,570株	13.20%
中村 敏一	7,000株	7.35%
有限会社イー・シー・エス	5,113株	5.37%
日本トラスティサービス信託銀行株式会社	3,770株	3.96%
バイオフィロンティア・グローバル投資事業組合 業務執行組員 株式会社バイオフィロンティアパートナーズ	3,340株	3.50%
森下 翔太	2,400株	2.52%
森下 真弓	2,400株	2.52%
小谷 均	1,985株	2.08%
富田 憲介	1,965株	2.06%
小谷 希美子	1,600株	1.68%

## ●所有区分別 株式分布状況

株式数 合計 95,281株



株主数 合計 15,730名



## ●役員

代表取締役社長	山田 英
取締役副社長	小谷 均
取締役	中村 憲史
取締役	中塚 琢磨
取締役	森下 竜一
取締役	榎 史朗
常勤監査役	池田 勉
監査役	遠山 伸次
監査役	菱田 忠士

## ●アンジェス MGグループ

会社名	資本金 主要な事業内容	当社議決権比率
アンジェス インク	100千米ドル 米国での遺伝子医薬品の臨床開発	100.0%
アンジェス ユーロ リミテッド	50千英ポンド 欧州での遺伝子医薬品の臨床開発	100.0%
ジェノメディア株式会社	90,000千円 遺伝子治療用ベクター及びドラッグデリバリーシステムの研究開発、新規有用遺伝子及び分子の探索、遺伝子機能解析	77.6%



●株主メモ

決 算 期 12月31日  
定時株主総会 3月中  
基 準 日 12月31日(利益配当金) 6月30日(中間配当金)  
名義書換代理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番3号  
UFJ信託銀行株式会社  
同事務取扱場所 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号  
UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
電話03-5683-5111 (代表)  
同 取 次 所 UFJ信託銀行株式会社 全国各支店  
野村證券株式会社 本店及び全国各支店  
公 告 掲 載 新 聞 日本経済新聞  
貸借対照表及び損益計算書掲載のホームページアドレス  
[http://www.anges-mg.com/ir\\_financial.htm](http://www.anges-mg.com/ir_financial.htm)

ホームページを  
ご覧ください。

最新のニュースリリースやIR資料  
などを掲載しております。  
ぜひご覧ください。

ホームページアドレス  
<http://www.anges-mg.com>



この中間事業報告書に関するお問い合わせ先  
東京支社 03-5730-2753